

みんぱく

公開講演会

挑戦 ファンタジーの もうひとつの世界を 想像しよう



2020.11.6 | 金 | 18:30~20:30
(17:30 開場)

総合司会 相島 葉月 (国立民族学博物館・准教授)

講 演 「アラジンなぜ世界を魅了するのか? ——ファンタジーの文明誌」

西尾 哲夫 (国立民族学博物館・教授)

対 談 「妄想が世界を創る！」

森見 登美彦 (作家) × 西尾 哲夫 (聞き手)

場 所 | 日本経済新聞社大阪本社カンファレンスルーム
大阪府大阪市中央区高麗橋 1-4-2

定 員 | 100名 ※要事前申込み/先着順 | 参加費 | 無料

※本講演会は会場内での聴講のほか、WEB ライブ中継 (要事前申込み) でも参加いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては開催の中止、形式の変更等となる場合もあります。

主催



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

日本経済新聞社

後援

岩波書店



世の中が乱れると、ファンタジーブームが起きると言われています。フランス革命勃発後、人びとはファンタジーに夢中になりましたし、関東大震災のあともファンタジーが読まれました。ボッカチオの『デカメロン』はペスト禍のときに書かれましたし、『千一夜』最古の写本が成立したとされる14世紀前後は、中東地域でペストが猛威をふるった時期でした。

「みんな今を生きているって、想像しよう」とジョン・レノンは言いました。いま一人ひとりが、これからどう生きよう、世の中はどうなるのだろうと不安にかられているかもしれません。ファンタジーは、その問いかけに即答するようなものではありません。その役割とは、もうひとつの世界を想像してみること、その可能性の中で日々を生きていくかけがえのなさを見つめることなのです。ファンタジーに思いを寄せることは、広い意味での想像力、創造力という人間に備わった能力の一部です。

人間は、10万年ほど前に言葉を獲得したとされています。おそらくは時を同じくして、さまざまな生存戦略の一部として「虚構の世界を創る」能力も獲得したのです。この能力は他者をあざむくためだけでなく、他者とつながるためでもあったでしょう。自分ではどうにもならない事象を前にしてそれを理解し超えていく、たとえ超えられなくても見知らぬものをそばに置き直して楽しむために想像の世界を広げていったのではないのでしょうか。

ファンタジーという文学ジャンルが広く認められるようになったのは、比較的新しい時代のことです。しかしファンタジーそのものは、人類が言葉を獲得してからずっと人間の営みの一部でした。言葉で世界を発見していく文学行為としてのファンタジーについて、その創造の現場で考えてみたいと思います。

プロフィール



西尾 哲夫 におおてつお

国立民族学博物館・教授

1958年、香川県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士(京都大学)。現在、人間文化研究機構・国立民族学博物館教授。総合研究大学院大学教授。主な著書に『アラビアンナイト——文明のはざまに生まれた物語』(岩波新書、2007年)『世界史の中のアラビアンナイト』(NHK出版、2011年)『ヴェニス商人の異人論——人肉—ポンドと他者認識の民族学』(みすず書房、2013年)ほか。アラブ遊牧民の言語や文化に関する言語人類学的研究やアラビアンナイトをめぐる比較文明学的研究をしている。近著の『ガラン版千一夜物語』(岩波書店、2019~2020年、全六巻)は各紙の書評等で話題となっている。



森見 登美彦 もりみとみひこ


作家

1979年、奈良県生まれ。京都大学農学部卒、同大学院農学研究科修士課程修了。2003年、『太陽の塔』で日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、小説家デビュー。2007年『夜は短し歩けよ乙女』で山本周五郎賞を、2010年『ペンギン・ハイウェイ』で日本SF大賞を受賞する。『四畳半神話大系』『有頂天家族』『有頂天家族 二代目の帰朝』はTVアニメ化もされた。ほかの著書に『四畳半王国見聞録』『聖なる怠け者の冒険』『夜行』等がある。最近の『熱帯』はアラビアンナイトにインスピレーションを得た実験的小説で、国立民族学博物館の教員を主人公のモデルにしている。なお本作品は直木賞候補作になるとともに、高校生直木賞を受賞した。

プログラム

- 17:30 開場
18:30 開会 渡邊 園子 (日本経済新聞社・大阪本社編集局長)
18:35 挨拶 吉田 憲司 (国立民族学博物館・館長)
18:40 **基調講演** 西尾 哲夫 (国立民族学博物館・教授)
「アラジンなぜ世界を魅了するのか?—ファンタジーの文明誌」
19:10 休憩
19:30 **対談** 森見 登美彦 (作家) × 西尾 哲夫 (聞き手)
「妄想が世界を創る！」
20:30 終了
総合司会：相島 葉月 (国立民族学博物館・准教授)

◆ 申込方法

国立民族学博物館  

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。
<https://www.minpaku.ac.jp/>
令和2年10月5日(月)受付開始予定
※参加申込みされた方の個人情報は本講演会でのみ使用いたします。



◆ 講演会場



・地下鉄 堺筋線
「北浜駅」4番出口より徒歩約3分
・京阪電車 京阪本線
「北浜駅」30番出口より徒歩約3分

◆ お問い合わせ先

国立民族学博物館 研究協力課
TEL 06-6878-8209